

# ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医のカルテ



28



みさき動物病院長  
(高岡市京田)  
三崎 将人

血液が足りない、そんなときの治療法として多くの人は「輸血」を思い浮かべるのではないでしょう。人間においては血液型もよく知られ、献血された血液を集める「血液バンク」が存在し、比較的身近な治療法として知られています。では動物においてはどのようにうか。ワンちゃんネコちゃんは、A B O式による血液型分類は用いませぬし、血液型を調べておくことは一般的ではありません。また、残念ながら人間の血液バンクのようなものは日本には存在しません。しかし人間同様、輸血が必要と

## 動物の輸血

**献血ドナーの条件**

- 年齢** 1～8歳
- 体重** 犬: 25 kg以上  
猫: 5 kg以上
- 性別** 雄  
妊娠出産歴のない不妊済みの雌
- 予防管理をしている**  
犬: 5種以上の混合ワクチン  
狂犬病、フィラリア症、ノミダニ  
猫: 3種以上の混合ワクチン  
ノミダニ
- 輸血を受けた経験がない**
- 完全室内飼育(猫のみ)**
- 1回の最大採血量**  
犬: 200～400ml  
猫: 40～50ml

## 献血ドナーに登録を

なる病気、輸血できればなあという治療場面は実は結構たくさんあるのです。交通事故などによる大出血、腹腔内胸腔内腫瘍の破裂、自己免疫性やネギ中毒などによる血液が壊されてしまう溶血、DICやフォンウィルブランド病などの止血機構の異常、新しい血液を作り出せなくなる骨髄の病気や白

血病など。挙げれば切りがありません。ではそんなとき、獣医さんはどうしているのでしょうか？ 輸血治療に積極的な病院は、ドナー(供血する側)となる犬猫を飼育し、その子たちから採血して使用する場合が多いです。ドナーの犬猫は、自分の健康を顧みずに供血を続け

ね。また輸血を行わずに点滴などで代替するなど、苦肉の治療になる場合も少なくありません。そこで今回お伝えしたいのが「献血ドナー登録」です。かかりつけの動物病院で「有事にはうちの子をドナーとして使ってください！」と言ってみてください。きっとすごく喜ばれます。

なくてはいいけないケアスも多いのです。供血には本来、適切なインターバル期間が必要なので、これではちょっとかわいそうですよ。供血動物の条件は図の通りです。確定ではありませんが、条件に合致する犬猫、特に大型犬や大きめの猫を飼育されている飼い主さんはぜひご検討ください。登録していただければ、病院にとってもすごく強いサポーター、スパーマンであること間違いありません。輸血によって他の動物を助けることができる、素晴らしいことだと思いますよ。